

キャラクター名	プレイヤー名
ティーダ・テルマン (真名：ホープ)	

種族	フィー	種族特徴	妖精の加護、浮遊		
生まれ	妖精使い	性別	男 (男性型)	年齢	14
冒険者Lv	10	経歴	愛読書を持ち歩いている (いた)		
経験点	2810		純潔である 師と呼べる人物がいる		

技	6	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	10	8		24 + 1	4				
体	8	敏捷度	14	11		31 + 1	5	フェアリーティマー	2		
		筋力	2	3		13	2	スカウト	7		
心	14	生命力	4	7		19	3	エンハンサー	5		
		知力	4	4		22 + 2	4	バード	3		
		精神力	6	6		26	4	アルケミスト	1		

戦闘特技		言語	会話	読文
追加攻撃	220 p	交易共通語	○	○
投げ攻撃	225 p	ドラゴン語	○	
カウンター	2120p	汎用蛮族語	○	
鎧貫き	1B39 p	魔動機文明語	○	○
トレジャーハント	2120p	妖精語	○	
ファストアクション	2123 p	ソレイユ語	○	
魔力撃	1-292p	手話	○	○
投げ強化	1-281p			
頑強	218 p			
踏みつけ	1-282p			
変幻自在	1-282p			

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
ガゼルフット	
アンチボディ	
ケンタウロスレッグ	
レジスタンス	
アーリーバード	
終律：秋の実り	
ヴォーパルウェポン	

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	10	14	15	12
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	必要	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	ポイントガード		1	1	1
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	グラップラー	合計値	16	2	

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アイアンナックル+1【怖い怖い女王さまの鉄拳制裁】(水・氷・風・土)	1H拳	8	2	2d+ 16	11	13	8										
グラップラー専用。パンチを強化、OM+3、魔法の武器加工、妖精の武器加工																	
シンガード+3【勇ましい妖精工の猛打(オベロン・ストライク)】(水・氷・土・風)	1H#	10		2d+ 14	11	13	22										
グラップラー専用。キックを強化、OM+2、魔法の武器加工、妖精の武器加工																	
投げ	2H	0		2d+ 14	12	12	30										
投げ攻撃のデータ、3部位まで投げられる																	
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3 m	32 m	96 m	2d+ 16	2	66	妖精魔法	2	6			
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP							
2d+ 0/X	2d+ 12	2d+ 13	2d+ 14	34							

装備品	説明	装備品	説明
頭 宝石飾り		叡智の腕輪	
耳 ディスプレイサー・ガジェット	部位：その他を得る。ミレイさんから借りる		
顔 バンダナ			
首 ポーションインジェクター	スカーレットポーションin		
背中 ウェポンホルダー	ミュージックシエル用		
右手 巧みの指輪		左手 俊足の指輪	
腰 多機能ブラックベルト		アルケミーキット	
足 軽業のブーツ	転倒しなくなる(転倒効果を受けても脚座に起き上がる。ペナルティなし)		
その他無敵に変身ベルト	お宝。		

その他メモ	自動失敗
ノーヴィスヴィアの大王の親方、アベル・テルマンの養子。この世界に降りて間もない頃に森で木を切っていたアベルと出会う。名前を聞かれた際に「ナマエ？何それ英雄！？」と返し、呆れたアベルから"太陽"を意味するティーダという名前をもらう。以降、アベルの子供として扱われ、大王である彼の仕事を手伝うようになった。格闘術はアベルに基礎を叩き込まれたもの。アベルに対する呼称は「父さん」。息子として扱われているのは、「お前どっちだ？」「んと、んと…。多分男！おっぱいもないもん！」という会話があったため。ある日、アベルと共に温泉宿に泊まったティーダは、そこの温泉で子供たちに酷くからかわれた。「男だって言ってるくせにアレが無いじゃないか！」フィーであるティーダには明確な性別が存在せず、また生殖器が備わっていなかった。自分はフィーなのだから当たり前だ。と思っていたティーダにとってその言葉は衝撃的であった。無いと男として扱ってもらえない。温泉から帰った後でそう嘆いていると、アベルから拳骨をお見舞いされる。びっくりしているティーダにアベルは静かに問いかけてきた。「大事なのは、てめえがてめえをどう思い、どうありたいと願うかだろうが、バカ息子」「ティーダ、お前の心はどうありたい？」かつて聞かれたことと同じ質問に「男…」と返したティーダに「じゃあこれからもこの先も、てめえは男だ。自信を持って、ティーダ」とアベルは返してきた。その顔はとてども頼もしく、以降ティーダはアベルを「カッコいい男の人」と認識し目標とするようになる。	チェック □□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑱ □□□□⑳ □□□□㉕ □□□□㉚ □□□□㉞

